

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		16 01 03	中期総合計画主要施策番号		3-10	担当課	部・課	警察本部 警務課・教養課ほか		
事業名		精強な第一線警察の構築事業					内線	4504		
							E-mail	police-keimu@pref.nagano.jp		
事業の概要等	事業の目的	・将来の県警察を支え、警察に課せられた責務を果たすため、優秀な人材を確保・育成することにより、精強な第一線警察の構築を図る。								
	事業の必要性	[現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)] ・近年、警察に対する公務執行妨害事件が増加するなど、職務執行を取り巻く環境が悪化している。 ・最近の警察官の退職者数及び採用者数の増加により、警察組織の人的編成が大きく変化しつつあり、これに伴う現場執行力の低下が懸念される。 [原因分析(ギャップが発生している原因は何か)] ・本格的な大量退職時代を迎え、ベテラン警察官の退職者数が増えている。 ・警察官採用試験の競争倍率が低迷している。 [課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)] ・優秀な人材確保のための採用募集活動を強化する必要がある。 ・第一線警察官の教養・訓練を強化する必要がある。								
		事業内容	・警察官募集に必要な広告媒体の作成 ・県外における就職ガイダンス及び採用試験の実施 ・映像射撃シミュレーターの整備							
		実施期間	H20 ~	根拠法令等	警察法					
成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価		
	・効果的な採用募集活動により、優秀な人材を確保する。 ・実戦的訓練に必要な設備を充実させ、これを活用することにより、第一線警察官の現場執行力向上を図る。		・採用試験の競争倍率を上昇させる。 ・映像射撃シミュレーターを整備し、効果的に活用する。			・平成20年度の警察官採用試験において、競争倍率が前年を上回った。 ・映像射撃シミュレーターが計画どおり整備されたことにより、第一線警察官の教養・訓練が効果的に推進できた。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下		
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要			
	最終予算額 (A)		千円		11,019	7,759	国庫・県単	国庫・県単		
	決 算 額 (B)		千円		9,093		実施方法	直接、委託		
	B(H21はA)のうち一般財源		千円		6,258	4,696	歳出節別	報償費:198		
	概 算 人件費	従事する職員数	人		0.01	0.01	内訳等	需用費:1,193		
		概算人件費 (C)	千円	0	71	71	(単位:千円)	役務費:1,966 委託料:1,615 使用料:4,121		
概算事業費 (B(H21はA)+C)		千円	0	9,164	7,830					
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績			
	警察官採用試験競争倍率		倍	4.7	5.8	5.9	・若手警察官の中から「リクルーティング・サポーター」を指名し、自身の出身大学への訪問を行うなど、積極的な募集活動を実施した。			
	就職ガイダンス実施数		回	57	104	110	・映像射撃シミュレーター(3台)を、各所属にリレー方式で巡回し活用している。			
	映像射撃シミュレーター訓練(警察官1人当たり)		時間	1	1.2	1.5				
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明							
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	・優秀な人材確保のための取組には、現役警察職員による対象者への直接的な働きかけが必要不可欠であること、また、反復継続した教養・訓練により実戦技能を確実に習得することは、警察の責務を全うするための必須の要素であることから、本事業に対する県民のニーズは依然高く、県(警察)の関与を見直す余地はない。			
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
課題の総括		・県民の期待と信頼に応えるための強靱な執行力と高い士気を備えた精強な第一線警察の構築に向けて、今後とも、引き続き優秀な人材の確保と育成に努める。								